

第4章 基本理念

4-1 基本理念

八代城跡群は、中世山城である古麓城跡、織豊系城郭である麦島城跡、近世期城郭である八代城跡、麦島城の瓦を焼いた平山瓦窯跡、近世八代城を任された松井家の墓所から構成される。これらは700年以上にわたり、八代地域の歴史とともに歩んできた城跡群で、特に八代城跡は市民の憩いの場であり、誇りであるとともに、八代市のシンボルでもある。そして、平成28年熊本地震の震災遺構・教訓でもある。

八代城跡群は、水陸交通の要衝に位置する八代地域を支配するため継続して築かれた城跡群である。城跡群からは歴代の政治権力による港湾・水運の掌握、さらには八代平野の開発の様相をうかがうことができる。また、八代城跡群は、一つの地域において中世から近世の城郭の変遷について知ることができる、全国的に見ても稀有な城跡群でもある。

このような貴重な城跡群の保存と活用を図るために、平成30年（2018）に策定した保存活用計画では、次のキャッチフレーズを設定した。

「中世山城から近世平城へ、3城織りなす八代物語」

このキャッチフレーズを具現化するために、個別の城跡を知ること重要であるが、中世の山城から織豊系城郭へ、そして近世の平城へと至る変遷を一つの物語として見るように、回遊型の史跡整備と活用を図ることを目指している。

整備の基本理念
八代城跡群の調査と研究
八代城跡群の発掘調査や文献調査を行い、調査で得られた成果を踏まえ、研究を積み重ね城跡群の歴史や価値、魅力を明らかにし、城跡群を八代の歴史文化遺産として確実に将来に継承する。
地域のシンボル化
八代城跡群を構成する各城跡・窯跡・墓所が有する多様な価値を高める整備を進め、それぞれの地域のシンボル化を図るとともに、まちづくりの核として活用する。
まちへの誇りと愛着の醸成、地域振興・観光振興の素材化
八代城跡群の保存修復と整備・活用により史跡としての価値を顕在化させることで、市民が歴史の中で暮らしていることを伝え、まちへのより深い誇りと愛着の醸成につなげる。また、各城跡・窯跡・墓所が所在する地域振興と観光振興の素材化を図る。

4-2 基本方針

整備の基本理念を基に、八代城跡群が目指す整備の基本方針を以下のように定めた。

(1) 八代城跡群の実態解明のための調査・研究

〈全体〉

- ・各城跡・窯跡・墓所の発掘調査、縄張り調査や文献調査を行う。

〈個別〉

- ・古麓城跡は堀切や堅堀等の地形を活かした山城であるので、地形調査を詳細に行い、その縄張りを明らかにする。
- ・松井文庫が所蔵する史料や、熊本大学附属図書館所蔵の松井家文書のうち、八代城跡や松井家墓所に関する史料調査を実施する。
- ・肥後熊本藩の中における八代城(麦島城跡及び八代城跡)の位置付けを行う。併せて、八代城跡に関する細川家と松井家の関係について検討する。

(2) 八代城跡群の価値を表す遺構の確実な保存と適切な修復の促進

〈全体〉

- ・史跡に自生、あるいは植樹された樹木の適切な管理を行う。

〈個別〉

- ・古麓城跡については城跡そのものである地形や、堀切・堅堀などの遺構の崩落を防ぐなど適切に保存するとともに、適切な樹木の管理を行う。
- ・麦島城跡については遺構(石垣)が地下に埋設保存されているため、具体的に整備することはできないが、ここの地下には石垣が埋設されていることを周知する。
- ・八代城跡については、熊本地震で一部石垣が崩落するなどしたため、現状の石垣の状態を記録する(石垣カルテ作成)。
- ・松井家墓所については旧廟・新廟ともに劣化が著しいため、適切な修復を行う。修復に際しては、現況を詳細に確認するとともに建築史的な調査、史料調査等を行う。

(3) 整備・活用の推進

来訪者が八代城跡群の魅力に触れる多様な機会を創出するために、現在の課題と現状を踏まえ、その課題への対策として、次のような整備・活用の推進を行う。

Table.02 八代城跡群全体の課題と対策

課題	対策
城跡群に生育する植物の管理	・古麓城跡や八代城跡については、旧地形や石垣等に植物が影響を与えないように管理計画を作成し、無計画な植樹や伐採を行わないようにする。
城跡群の便益施設等の劣化や老朽化	・城跡群・窯跡・墓所の道路、通路、トイレや休憩所等の便益施設等を整備し、安心して見学できるように整備する。 ・整備に伴い、老朽化した施設や不要な施設、史跡に影響を及ぼしている施設の撤去を行う。
駐車スペースの不足	・駐車スペース等を整備し、安心して見学できるようにする。
説明板や誘導サインの不足	・城跡群・窯跡・墓所への誘導サインや説明板を統一したデザインで整備し、来訪者に城跡群を一体のものとして見学してもらえるような整備を行う。
城跡群のPR 不足 市民の認知度の向上	・八代城跡群としてリーフレット等の概要を記したものを作成、頒布を行う。 ・八代市民への認知度を向上させるため、学校教育においては、市内の小中学生の社会科見学のコースとして八代城跡群を設定するとともに、出前授業を行い八代城跡群に対する認知度の向上を図る。 ・市民に向けた社会教育では、定期的に八代城跡群をめぐるウォーキングや各城跡・窯跡・墓所の所在する地域のコミュニティセンターで出前展示等を行う。これにより地域住民が我が町の八代城跡群の魅力を学び(知り)、その良さをSNSに発信し、他地域からの来訪者増につながるよう促す。 ・中世から近世までの城跡と、築城にかかわった瓦窯跡、墓所を一地域で見ることができる八代城跡群の特徴・魅力を広くアピールするために、普及活動を行う。
来訪者へのPR	・クルーズ船の寄港に伴い、八代城跡群を巡るツアーを企画し、県外あるいは海外にアピールする。 ・スリーデーマーチに八代城跡群をくまなく巡るコース等を設定し、来訪者が八代城跡群に触れる機会を創出する。 ・やつしろ全国花火競技大会や八代妙見祭等多くの来訪者が訪れる祭やイベントとタイアップし、八代城跡群の魅力発進につなげる。
他の文化財との連携	・八代市内には国史跡の干拓遺跡群や日本遺産等多くの文化財が所在している。旧堤防跡、樋門や石橋、それらを築いた石工等、城跡群の石垣にも関連するものがあり、八代城跡群は「石工の郷 八代」の文化を体現するものである。これらと連動した回遊コースを設定し、より八代の歴史や魅力について知ってもらえるような整備を行う。
調査・研究成果の公開	・保存整備等にかかる発掘調査の際には現地見学会を行う。 ・八代城跡群に関するデジタルアーカイブを作成し、公開する。
城跡群の可視化	・城跡群であるが、櫓等の城郭建物は現存せず、特に麦島城跡の石垣は地下に埋設保存されているので、AR や VR といったデジタルコンテンツを整備する。
拠点となるガイダンス施設の不足	・八代市民俗伝統芸能伝承館（お祭りでんでん館）を拠点として位置づけ、最新の情報等を伝える。

Table.03 古麓城跡の課題と対策

課題	対策
地形（遺構）の保存・保護	・雨水等による侵食を防ぐような整備を行う。 ・適切な樹木の管理を行う。
樹木の管理	・古麓城跡から八代平野を眺望できるように、視点場（ビューポイント）の設定を行い、眺望確保のため、定期的な樹木の管理を行う。
通路等の劣化及び老朽化	・城跡を安全に散策できるように既設通路の整備、風倒木の除去等を行う。
城跡群のPR不足 市民の認知度の向上	・リーフレットを早急に作成し、刊行する。

Table.04 麦島城跡の課題と対策

課題	対策
ガイダンス施設の設定	・麦島コミュニティセンター内に麦島城跡のガイダンス機能を付与する。国史跡指定範囲に加え、麦島城跡が埋設保存されている古城町内を散策し、麦島城跡の範囲や構造を体験できるようにする。
城跡群のPR不足 市民の認知度の向上	・麦島城跡周辺に、ここにかつて城があったことをイメージさせるような説明板の設置、あるいは遺構上の道路にカラー舗装等を施す。

Table.05 八代城跡の課題と対策

課題	対策
石垣の記録	・石垣の現状を記録するために、石垣カルテの作成を行う。
北ノ丸の整備	・北ノ丸の堀跡の環境整備を行い、本丸と一体でゆっくり見学できるように整備を行う。
城跡群のPR不足 市民の認知度の向上	・八代城跡群のうち、八代城跡は八代市民にとって憩いの場であるとともに、八代市民の誇りのひとつでもある。その魅力を来訪者や市外の人々に伝えるためにSNS等を用い、広く情報発信する。例えば、八代城築城400年を記念するキャラクターが一人称としてSNS等で発信する。

Table.06 平山瓦窯跡の課題と対策

課題	対策
復元窯及びレプリカ窯の劣化や破損	・適時に修理・修復を行う。

Table.07 松井家墓所の課題と対策

課題	対策
城跡群のPR不足 市民の認知度の向上	・所有者の理解と協力を得て、春光寺に移築された永御蔵跡の番所を、古麓城跡及び松井家墓所のガイダンス施設として利用する。
	・リーフレットを早急に作成し、刊行する。

4-3 全体計画

4-1で掲げた基本理念に基づいて有効的な整備活用を実現して行くために、八代城跡群全体の活用の考え方や整備の方向性を示す。

(1) 八代城跡群の活用についての考え方

八代城跡群の特徴は、一地域で中世から近世の城郭の変遷について体感できることである。

市民に対しては、学校教育や社会教育の場で、八代城跡群を構成する各城跡・窯跡・墓所の魅力への理解を深め、八代城跡群の変遷を通して郷土八代に継続的に城が営まれてきた歴史的意義を考えることができる整備を行う。

八代城跡群の活用を通して、市民一人一人が八代城跡群に対する理解と郷土八代に対する愛着を深め、さらにその魅力を外部に発信できるようになることを目標とする。

最終的には市民が自ら八代城跡群について探求し、その成果をまちづくりやガイドに活かすことができる「市民城跡学芸員」となれるような環境をつくり、市民が主体となって八代城跡群を中心とする郷土八代の文化財を保存・保護する土壌の醸成を図ることができるような整備を目指す。

来訪者に対しては、八代城跡群に関するホームページや本、資料を通して八代城跡群に対する興味を抱き、実際に八代城跡群を訪れてみたくなるようなPR等を行う。

来訪者が八代城跡群を訪れる際に、個別単独の城跡等を訪問して終わることがないよう、八代城跡群全体を巡って各城郭の特徴や変遷、関連する窯跡、墓所を一連の物語として体感し、魅力を感じることができる回遊ルートを設定することが必要である。

そのルートのオプションとして八代城跡群以外の文化財＝観光資源も組み込むことで八代の魅力について理解を深めてもらい、来訪者がSNS等を利用して拡散してもらうことを期待する。

上記のような活用を図るため、市民及び来訪者がそれぞれの立場で、八代城跡群を「①知る」、「②好きになる」、「③伝える」の各段階を経ることができるような八代城跡群の整備を目指すこととする。

①【知る】

- ・調査と研究を進め、各城跡・窯跡・墓所の実態解明に努め、新たな情報を広く公開・発信できるような整備を行う。
- ・遺構や遺物の保存を最優先とし、史跡に影響が及ばないように整備を進める。
- ・中世山城から近世平城までを回遊することで、城の変遷について知ることができるような整備を行う。
- ・八代城跡群を訪れてみたくなるようなPRを行う。
- ・現地で実物を見て、各城跡・窯跡・墓所について知ることができるような整備を行う。
- ・地下に保存されており実際に見ることができない遺構や失われた建造物については、AR・VR、カラー舗装等を駆使して可視化する。
- ・八代城跡群として、説明板の統一化と充実化を図る。
- ・来訪者には八代城跡群を知ってもらうような整備を進める。

②【好きになる】

- ・市民が八代城跡群の価値について深く学び、郷土に対する愛着を深めるような整備を行う。
- ・来訪者が八代城跡群に魅了され、再訪したくなるような整備を行う。

③【伝える】

- ・市民が、自ら学んだ地域の誇りを外部に発信できるように整備する。
- ・来訪者が自らの体験をとおして、八代城跡群の魅力を伝えることができる整備を行う。

八代城跡群の整備活用

八代市民

来訪者

①【知る】

八代城跡群について
知っている八代城跡群について
よく知らない

城（歴史）好き

発信された情報を
基に行ってみる理解を深める
新たな発見地元の史跡に
ついて知る実際に見て
感銘を受ける八代城跡群について
知ってもらう

②【好きになる】

城跡群に愛着がわく
郷土愛の醸成城跡群に魅了される
再訪したくなる

③【伝える】

市民城跡学芸員
八代の魅力発信外部に発信する
移住・定住を考える

地域活性化

文化財の保存・保護に対する意識の向上

Fig.31 史跡整備の目指すところ

(2) ガイダンス機能の強化と各城跡等の連携

1) 全体の拠点-八代城跡群へのエントランス

・八代市民俗伝統芸能伝承館

八代市民俗伝統芸能伝承館(以下、お祭りでんでん館)は八代市の中心市街地に位置し、八代城跡北ノ丸に立地するとともに、その敷地の一部(芝生広場)が史跡の指定範囲に含まれていることから、八代城跡群を訪れる方の玄関口(エントランス)に位置づける。

お祭りでんでん館を八代城跡群を訪れる方々のエントランスとして位置づけ、各城跡・窯跡・墓所並びに市内各施設が互いに連携補完しあい、八代城跡群の理解の促進を行う。

お祭りでんでん館はJR八代駅からバスで約15分であり、公共交通機関を利用してアクセスしやすい立地環境である。また、駐車場も整備されていることから、自動車を訪れることも可能である。

八代城跡群を訪れる方々に対して、お祭りでんでん館において八代城跡群全体を紹介するリーフレット類等を配布し、八代城跡群の概要に関する理解を促進する。館内では八代城下町の文化を象徴する八代妙見祭に関する展示等を行っており、八代城を中心とする城下町の文化等を知ることができる。

2) 古麓城跡・松井家墓所

・永御蔵番所

所有者である春光寺の協力と理解を得て、境内に移築された永御蔵番所にガイダンス機能を付加して活用することを検討する。ガイダンス施設として使用する場合、管理団体による整備等が必要である。

3) 麦島城跡

・麦島コミュニティセンター

現在、麦島コミュニティセンター(以下、麦島コミセンという。)のロビーに麦島城跡を紹介するパネルや出土遺物の展示が行われており、既にガイダンス機能を有している。展示のさらなる充実を図るとともに、元和5年(1619)に倒壊したと考えられる平櫓建築部材の太鼓壁等の震災遺構の展示を検討する。

付近には八代市シルバー人材センターが所在しており、ロビーの一角においてセンター建設に伴う発掘調査で出土した二ノ丸の石垣の一部が露出展示されている。

両施設とも駐車場があり、回遊する際の駐車場として利用することも見込まれる。なお、シルバー人材センターは土・日・祝日は休みであるので調整が必要である。

4) 平山瓦窯跡

・復元窯跡

復元窯跡のガイダンス機能を強化する。復元窯跡に詳細な説明板等を設置する。近隣に駐車スペースを確保することが必要である。

5) 八代城跡

・八代市役所本庁舎

八代城跡二ノ丸に所在する八代市役所本庁舎を八代城跡のガイダンス施設の一つとして位置づけ、6階展望スペースを八代城跡のビューポイントとして活用するとともに、庁舎建設時の発掘調査で出土した遺物や調査状況を紹介する写真パネル等を庁舎内に設置する。

・市立博物館

市立博物館1階には八代城の復元模型や本丸高麗門前の欄干橋に設置されていた「元和八年銘」擬宝珠等が展示されている。

また、八代城築城400年を記念するリーフレットや周遊マップ等を販売している。

6) 補助施設

補助施設においては、八代城跡群のリーフレット等を配布したり、パネル展示等を行い、実際に八代城跡群を訪れたいくなるような仕掛けを行う。

・各支所・各コミュニティセンター・市立図書館

八代市民向けに、八代城跡群のリーフレット等の配布やパネル等を用いて簡易的な展示を行う。

・JR 八代駅、新八代駅

公共交通機関で来訪する際は、JR 八代駅、新八代駅の利用が見込まれる。八代駅には八代観光案内所が、新八代駅には八代市観光物産案内所があり、八代城跡群及び八代市のPRを同時に行うことができる。また、両駅ともにレンタサイクルの利用が可能である。

・くまモンポート八代

旅客ターミナルで八代城跡群のリーフレット等を配布する。

・くまナンステーション

八代市及び熊本県南地域の観光情報・特産品等を紹介しているくまナンステーションは八代城跡の旧城下町である本町アーケード内に所在し、八代城跡、お祭りでんでん館から近い。八代城跡群のリーフレット等を配布する。また、レンタサイクルの利用が可能である。

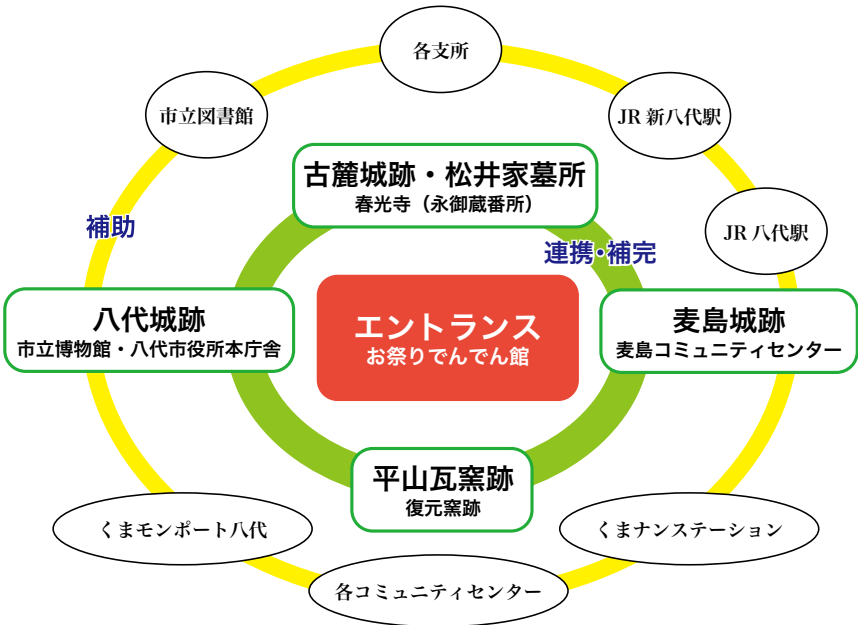


Fig.32 ガイダンスと各城跡等の連携イメージ

(3) サインの設定

八代城跡群へのアクセスは、九州自動車道、国道 3 号、県道 14 号・42 号・338 号が中心であると考えられる。また、各城跡・窯跡・墓所は市内に点在しており、そこに至るルートも様々である。そのため、来訪者が迷うことなく目的地にたどり着けるためには、適切な場所に車両誘導サインを設置することが求められる。特に、主要道路の結節点から誘導するための車両誘導サインの設置が重要である。車両誘導サインは、自転車や徒歩で来訪する方の目印ともなる。

史跡案内サインは、各城跡・窯跡・墓所の駐車場もしくは各施設等に設置する。誘導サインは、各城跡・窯跡・墓所内において、来訪者をスムーズにその見どころへ誘導することができるように設置する。

遺構・遺物名称サイン及び説明板は各城跡・窯跡・墓所においてそれぞれの見どころに設置し、史跡を理解する助けとなるように心がける。設置する際は、見学するポイントへの視線の妨げにならないよう配慮する。

1) 整備方針

- ・車両と歩行者向けのサインを、区別しやすいデザインとする。
- ・八代城跡群全体でデザインの統一化を図る。
- ・来訪者に向けて、快適に八代城跡群を巡ることができる表示等を工夫する。
- ・遺構・遺物名称サイン及び説明板は、シンプルな文字表現で読みやすくする。
- ・遺構・遺物名称サイン及び説明板には QR コードを表示し、より詳細な解説をデジタルコンテンツで閲覧できるようにする。
- ・遺構・遺物名称サイン及び説明板の文字表示は多言語化し、QR コードを介してスマートフォンで音声ガイダンス等にアクセスできるようにする。

2) 配置計画

・車両誘導サイン A

主要な交差点に設置し、各城跡・窯跡・墓所へ誘導する

・車両誘導サイン B

目的地において、名称や駐車場等を示し、容易に駐車できるよう誘導する。

・史跡案内サイン

史跡指定地のマップに、現在地と見どころの位置やルートを示す。

・誘導サイン

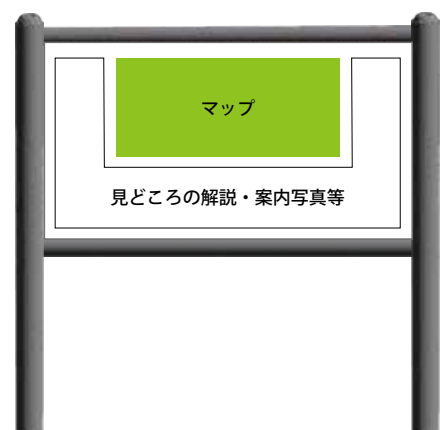
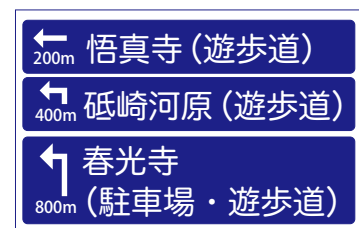
見どころの位置への方向を示す。

・遺構・遺物名称サイン

誘導サインに沿って回遊してきた来訪者に見どころの位置を示す。

・説明板

対象となる遺構・遺物の見どころ、他の城跡等との位置関係等を、写真や図版を用いて解説する。



(4) 展示システムの検討

ガイダンス機能の強化とサインの設定を基盤として、各城跡・窯跡・墓所の価値をわかりやすく伝え、深く理解してもらうために、体験できるコンテンツや城跡群を複合的に案内させるシステムの充実が必要である。

1) 総合案内

八代城跡に近接するお祭りでんでん館、八代市の窓口でもある JR 八代駅、新八代駅において、八代城跡群の基本的な情報を伝える。

また、各城跡群・窯跡・墓所において、八代城跡群の理解につながる史跡案内サイン等を設置する。

- ・ 統一的なデザインにする。
- ・ シンプルな文字表現で読みやすくする。
- ・ 上記の情報を解説するとともに、QR コードを表示し、より詳細な解説をデジタルコンテンツで閲覧できるようにする。
- ・ 文字表示は多言語化するとともに、QR コードを表示しスマートフォンで音声ガイダンスを聞けるようにする。

2) 個別ガイダンス施設における展示及びサイン

個別ガイダンス施設では、それぞれの特徴を伝える展示を行う。

- ・ 統一された説明板を設置する。
- ・ 説明板には QR コードを表示し、より詳細な解説をデジタルコンテンツで閲覧できるようにする。詳細な解説については印刷し配布も行う。
- ・ 文字表示は多言語化するとともに、QR コードを表示しスマートフォンで音声ガイダンスを聞けるようにする。
- ・ 可能な限り出土遺物等の展示を行う。実物が不可能な場合はレプリカ等で代替したり、QR コードを介してネット上に公開された 3D データ等にアクセスできるようにする。

3) VR・AR を活用した展示

八代城跡群は、八代城跡に現存している本丸・二ノ丸・北ノ丸の石垣を除くと大半の遺構が地下に保存されており、実際の城の姿をイメージすることは困難である。したがって、八代城跡群をよく理解するためには、AR や VR を用いた展示システムを積極的に導入し、八代城跡群を可視化することが重要である。

- ・古麓城跡は土造りの山城であることから、土造りの堀切や堅堀等の遺構、地形そのものが城郭の遺構であり、一般の人がそれを実際にイメージするのは困難である。したがって、AR や VR を用いて遺構を分かりやすく可視化することが重要である。
- ・麦島城跡は主要な遺構である石垣や礎石建物跡が地中に埋設保存されているので、古麓城跡同様に AR や VR を用いて石垣や、想定される櫓等の建築物を再現・可視化することが重要である。
- ・八代城跡の本丸石垣、北ノ丸と二ノ丸の一部の石垣は現存するが天守等の建築物は現存しないため、AR や VR を用いて再現することが重要である。
- ・平山瓦窯跡については、復元窯跡を活用して AR や VR による窯業作業の可視化等を検討する。

(5) 回遊ルートの設定

八代市を訪れる方の大半は JR 八代駅及び新八代駅を利用すると想定されることから、駅を起点にお祭りでんでん館に至ることを前提に各コースを設定した。

古麓城跡・松井家墓所の見学時には春光寺の駐車場を、麦島城跡の見学時には八代シルバー人材センターと麦島コミセンの駐車場を、八代城跡の見学時には八代市役所本庁舎、お祭りでんでん館、市立博物館、市立図書館の駐車場を利用することができる。

コース設定にあたり、お祭りでんでん館及び周辺並びに麦島コミセンにレンタサイクル拠点の設置を検討する。

自転車を用いて回遊することで八代城跡群に加え、球磨川の流域や近世以降の干拓地等、市内の景観を堪能することもできる。あるいは、麦島城跡一帯を説明板及び案内板にしたがって自転車で巡ることで微妙な高低差や水路（堀跡）を通して地中に保存されている城域の広がりを感じることができる。

また、八代城跡群が所在する範囲にはバス路線があり、乗車を通して地域住民との触れ合いも期待できる。

なお、八代市シルバー人材センターの開館は平日のみであることから、土・日・祝日における見学が今後の課題である。

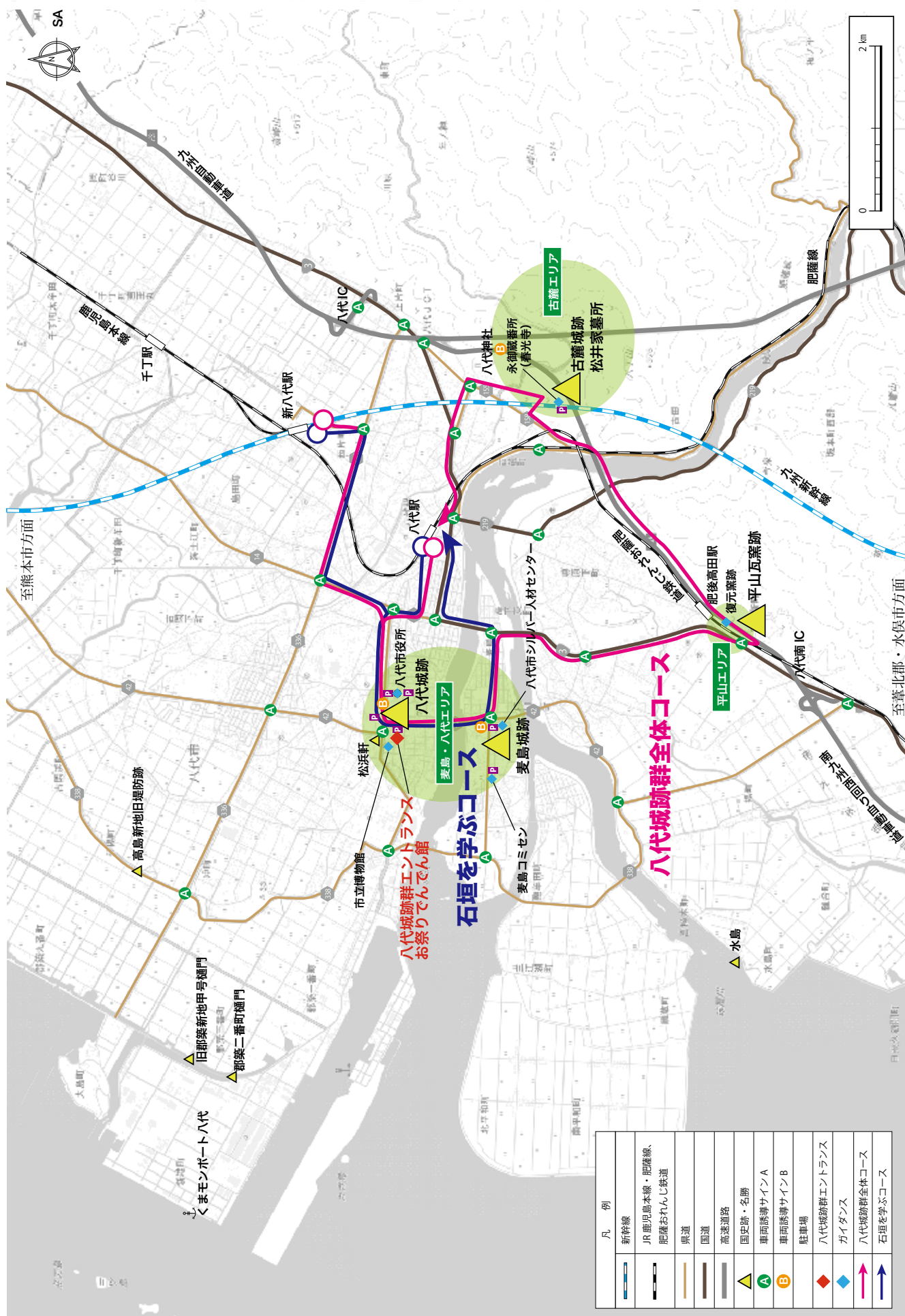


Fig.33 八代城跡群を巡る回遊ルート

1) 八代城跡群全体コース

- ・移動手段：車もしくは自転車、徒歩
- ・移動時間：約5時間
- ・移動距離：約21km

八代城跡群全体を巡るルートである。お祭りでんでん館で八代城跡群のリーフレット等を入手し、八代城跡（近世城郭）を訪れて壮大な石垣を見学した後、麦島城跡（織豊系城郭）、古麓城跡（中世城郭）と時代を遡りながら城郭の変遷を辿るコースである。

麦島城跡から古麓城跡に至る途中で、麦島城跡の瓦を製作した平山瓦窯跡に立ち寄り窯跡の構造や城郭瓦の製作技法に理解を深め、古麓城内の松井家墓所を訪れて八代城を治めた松井家の歴史に思いを馳せることができる。

麦島城跡を訪れる際には麦島コミセンで麦島城跡のリーフレットを入手してロビーに展示されている出土遺物や写真パネルを見学することを、八代城跡を訪れる際は市役所本庁舎6階から本丸全体を眺めて本丸の規模を把握するとともに、市立博物館で八代城跡のリーフレットを入手して八代城跡の復元模型等を見学することを推奨する。

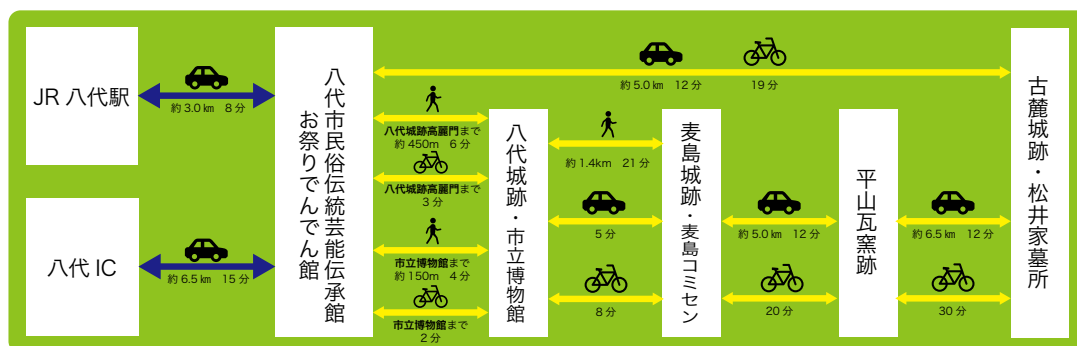


Fig.34 全体コースの移動距離及び所要時間の目安

2) 石垣を学ぶコース

- ・移動手段：徒歩、自動車、バス
- ・移動時間：約2時間
- ・移動距離：約3km

石垣造の城である麦島城跡、八代城跡を巡り、石垣の積み方の変遷や構造について学ぶことができるコースである。

八代城跡から麦島城跡は約1.4kmの距離なので、徒歩や自転車で巡ることもできる。また、市内を周遊しているバスでの移動も可能である。

コースの途中で、八代城跡を訪れる際は市役所本庁舎6階から本丸全体を

眺めるとともに、市立博物館で八代城跡のリーフレットを入手して八代城跡の復元模型等を見学することを、麦島城跡を訪れる際には麦島コミセンで麦島城跡のリーフレットを入手してロビーに展示されている出土遺物や写真パネルを見学することを推奨する。

両施設を訪れることで、麦島城跡と八代城跡の縄張の類似性や、八代城築城の契機となった元和5年(1619)の地震、石垣の変遷等を深く学ぶことができる。

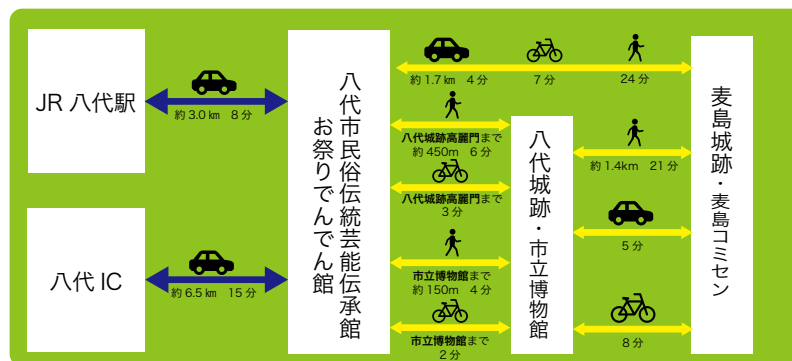


Fig.35 石垣を学ぶコースの移動距離及び所要時間の目安

(6) 各城跡・窯跡・墓所の保存と整備のゾーニングについて

各城跡・窯跡・墓所の保存や整備は、段階を踏んで行う必要がある。現時点における整備の各段階案を以下に示す。

1) 古麓城跡

最優先で、伝新城跡の北側の遊歩道に架かる二つの橋の整備を行う。これらの橋は欄干が失われており、早急に整備を行う必要がある。また、説明板の設置を行う。

第二に、伝新城跡に所在する公園の整備を行う。史跡指定以前に公園として整備されていたが、ベンチ・東屋・トイレ等の便益施設が経年劣化・老朽化している。老朽化した各施設の改修や撤去、遺構に影響を及ぼさないことを条件に新たな便益施設の設置の検討を進めるとともに、説明板を設置する。

第三に、伝新城跡地区から伝鷹峯城跡地区手前に伸びる遊歩道の整備を行う。遊歩道の除草を行い、遺構に影響を与えないよう留意しながら真土や砂利を敷設する。また、伝鷹峯城跡地区の手前、遊歩道東側に写真付説明板を新たに設置する。その他、伝新城跡地区北側中央部に設けられ、閉鎖されたアスレチック施設の撤去を行う。

2) 麦島城跡

第一に、天守台跡（国史跡範囲）の整備を行う。具体的には、複数設置されている説明板の更新を行う。原則として車両の進入を禁止し、モニュメントや車止めとして設置されている石灰岩の撤去を行う。

第二に、小天守跡（国史跡範囲）を含む都市計画道路部分の整備を行う。具体的には、地下に保存されている遺構-小天守石垣や堀跡等の範囲を明示するために道路のカラー舗装の検討を行う。また、通行に支障がないことを条件に、歩道部分等に説明板を設置する。

第三に、麦島城跡の推定城域内（本来保護すべき範囲）の重要な場所、特徴となる箇所に説明板を設置し、城域を示す。また、二ノ丸に所在する市有地や八代市シルバー人材センターの整備を検討する。

3) 八代城跡

第一に、説明板の更新を行う。また、本丸東側の欄干橋を渡り城内に入り、高麗門から頬当御門を通過する辺りまでの通路が劣化し損傷していることから、整備を行う。また、将来の積み直しや災害に備えて、本丸及び北ノ丸石垣のカルテを作成する。本庁舎における写真パネル等の設置を行う。

第二に、本丸・北ノ丸において石垣に影響を与えていると判断される支障木の剪定・伐採を行う。また、本丸外への公園事務所移転を進める。

第三に、堀跡を含む北ノ丸の環境整備について検討を行う。また、城域内（本来保護すべき範囲）に説明板を設置し、城域を明示する。特に、市役所周辺の公有地（道路を含む）において、重点的に行う。

4) 平山瓦窯跡

新しい説明板の設置及び内容の更新を行う。

5) 松井家墓所

第一に、旧廟・新廟の改修を行う。また、新廟周辺の石積みが孕んでいるため、現状を調査し、必要に応じて一時解体・保存修復を行う。

第二に、旧廟・新廟・歴代住持墓域・松井家一族墓域をはじめ、春光寺本堂等の各施設や、同所に移築された永御蔵番所と御門について、説明板の設置及び内容の更新を行う。また、永御蔵番所跡にガイダンス機能を付加することを検討する。

第三に、春光寺の入り口に架かる石橋の保存処理を行う。

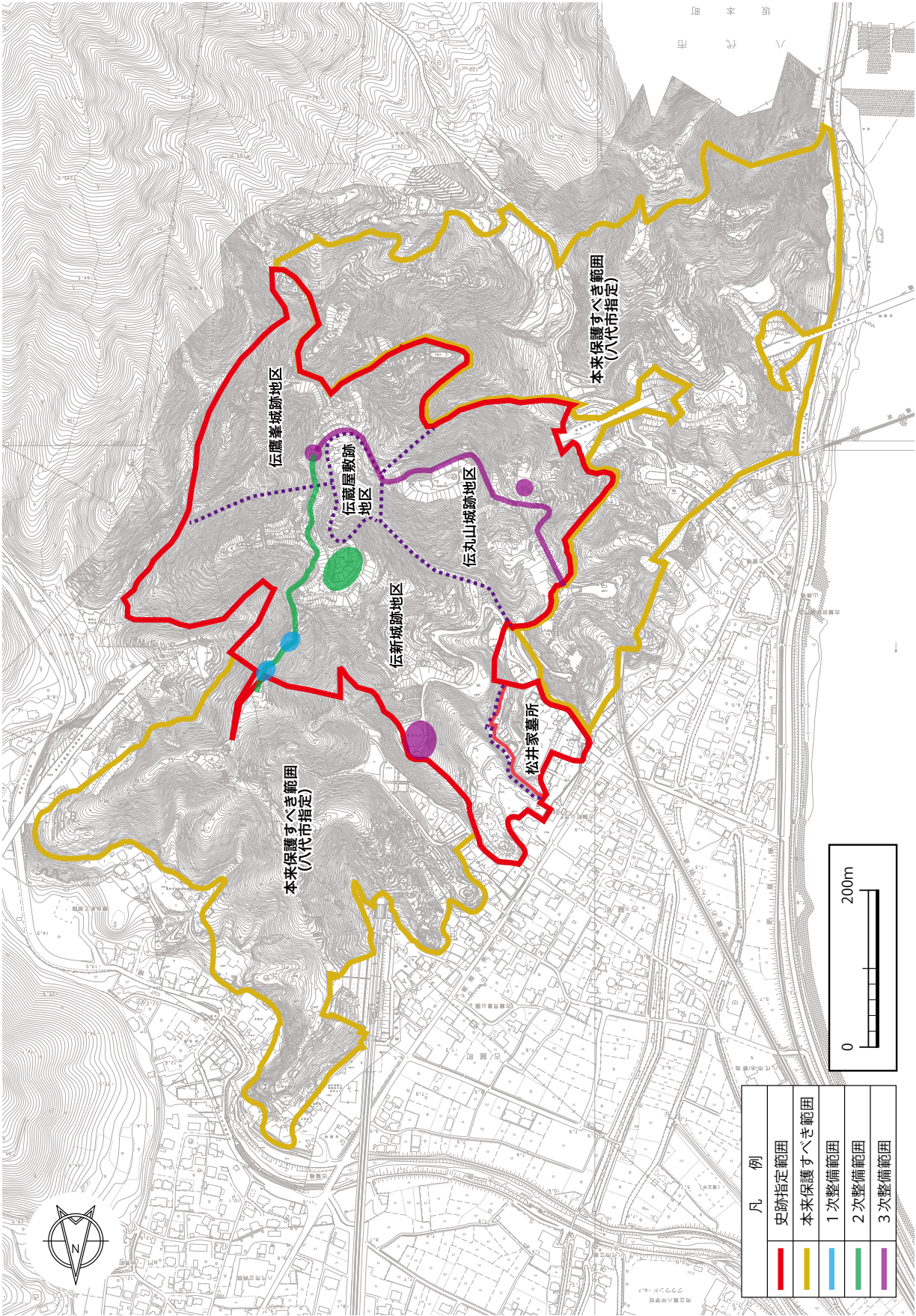


Fig.36 古麓城跡のゾーニング

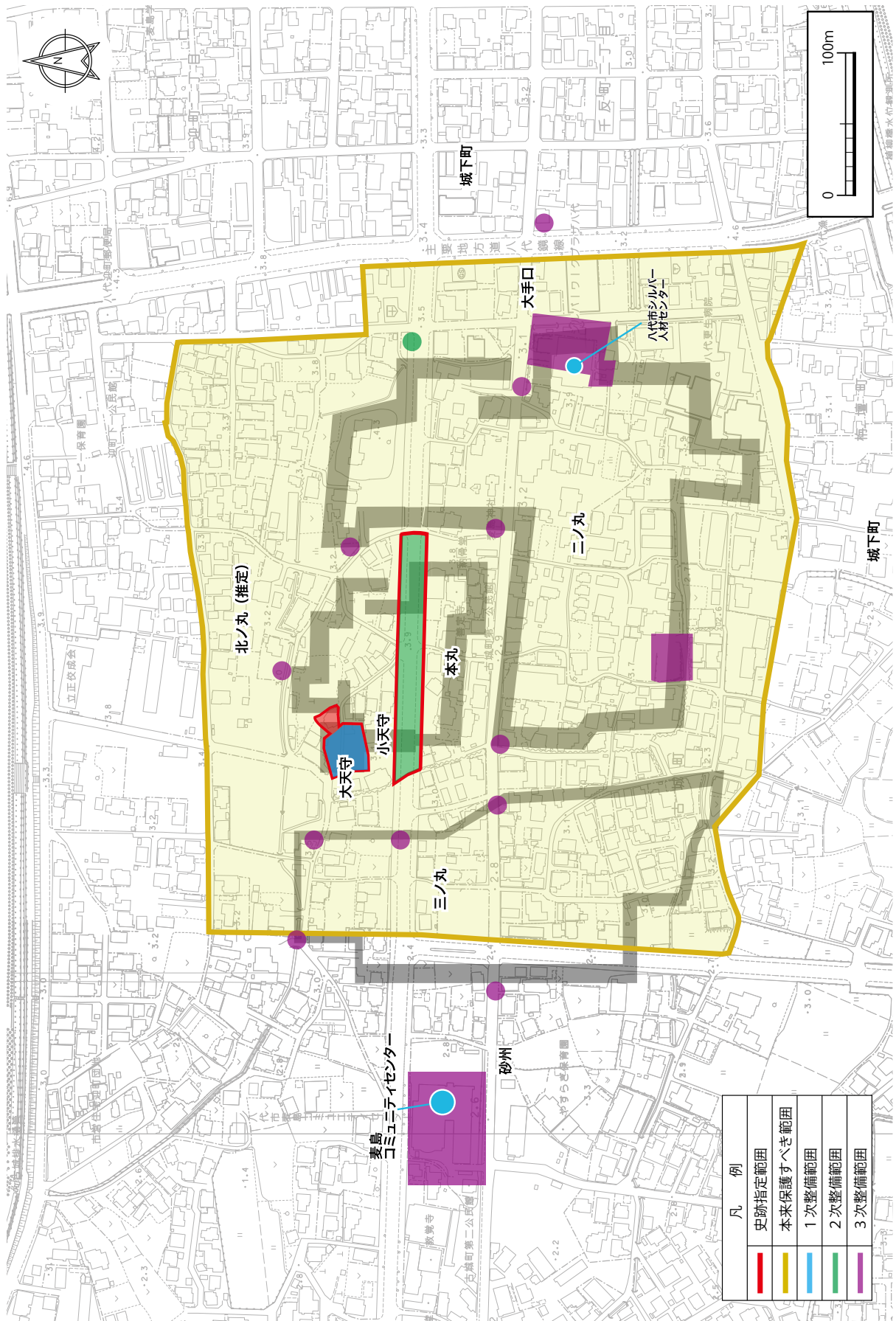
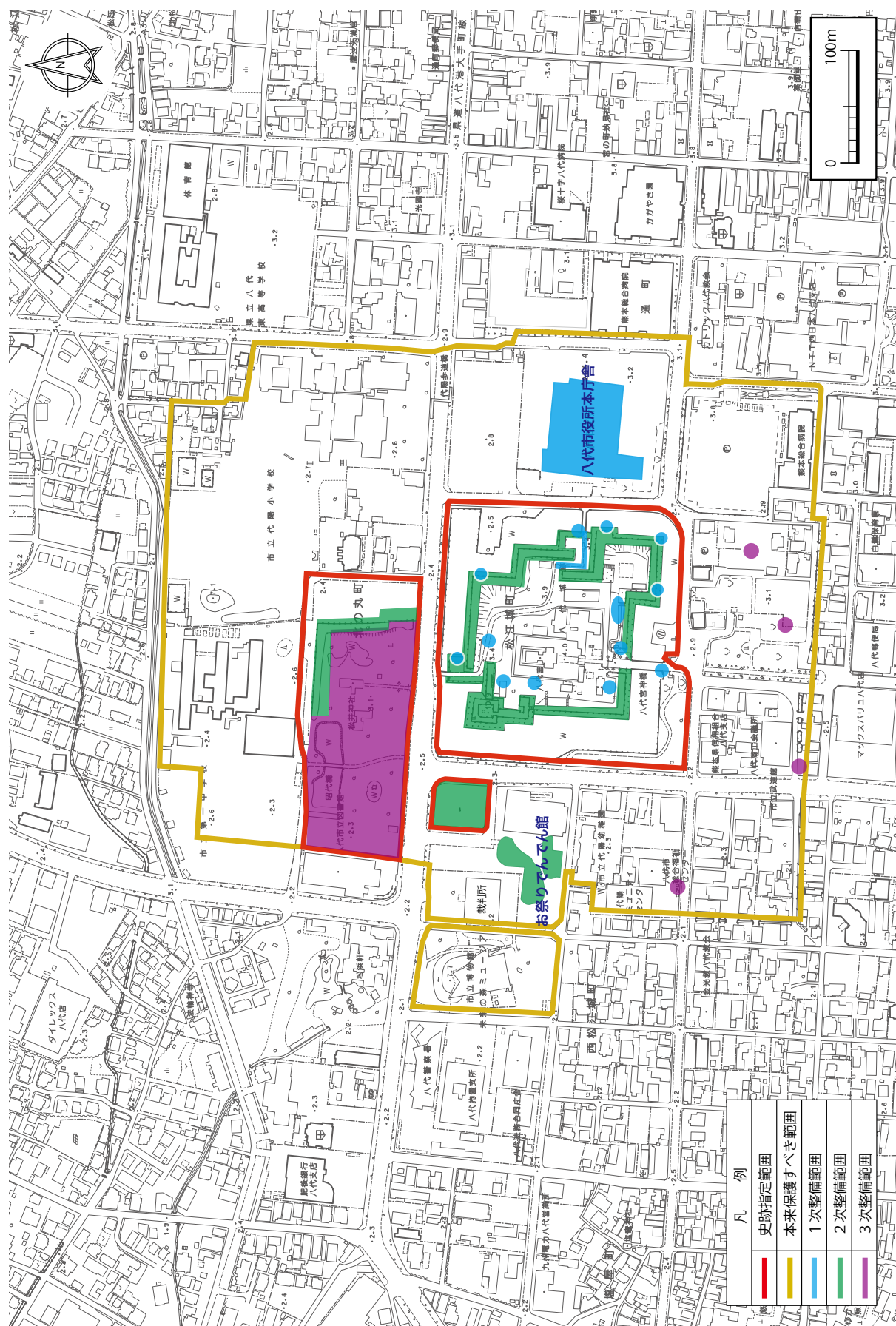


Fig.37 麦島城跡のゾーニング



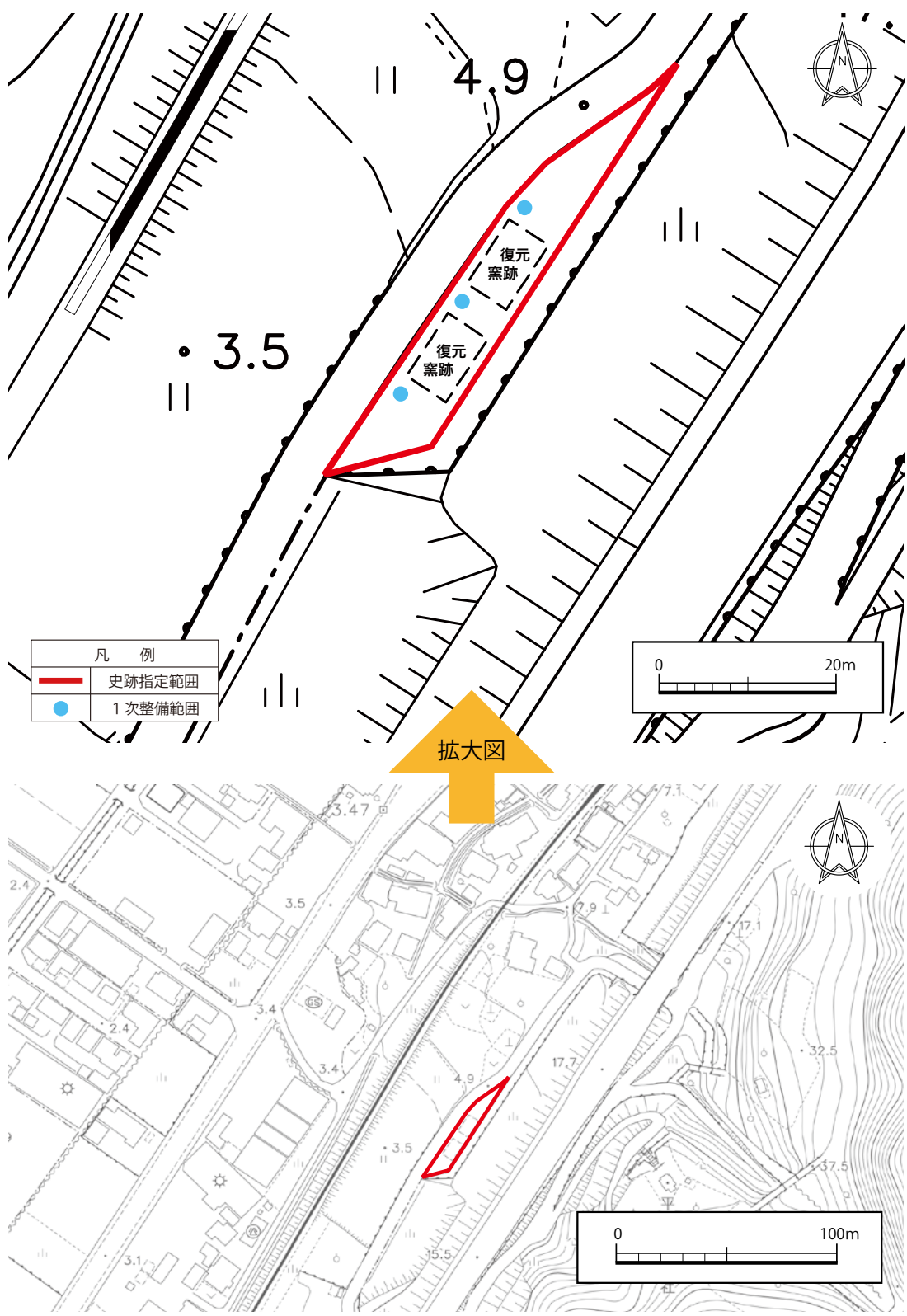


Fig.39 平山瓦窯跡のゾーニング



Fig.40 松井家墓所のゾーニング